

- 「法人設立7年目を迎えて」
- コムニの里 各施設の取り組み
- 新設コムニの里みどりヶ丘進捗状況
- 博愛会学会・コンテスト・編集後記

— 「法人設立7年目を迎えて」 —

平成20年3月社会福祉法人博愛会が創設され、8月にはコムニの里第1号が更別村に開設しました。

23年3月には帯広東圏域、25年5月には幕別町本町地区に地域密着型サービス事業を開設しました。

現在4施設目を帯広市緑ヶ丘に建設中です。この施設は温泉施設の跡地利用で温泉を継続して活用するため、今までの小規模特養と小規模多機能施設に加え49戸のサービス付き高齢者向け住宅を併設します。資材高騰や専門職工の不足で当初計画の見直しを余儀なくされましたが、地域密着型サービスは、27年3月中開設、サービス付き高齢者向け住宅は同年7月入居開始を目途に順調に工事が進んでおります。

本年、グループである医療法人社団と社会福祉法人が協同で2つの新規事業を計画しました。その第1弾が10月5日開催しました「博愛会学会 テーマ つながり～博愛会としてのよりよい連携とは～」です。グループ内の各事業所が、継続的に医療や介護等業務の質の管理・改善に向けて、創造性を発揮し、自己啓発・相互啓発を図り、自らの能力向上と自己実現を高め、明るく活力に満ちた生きがいのある職場づくりや利用者様満足の向上と社会への貢献を目指すことを目的に、今まで行ってきた研究開発、業務改善、実践成果等の取組み20演題を発表し、外部審査員により評価いただきました。学会に先立ち、特別講演として「無駄と思われる仕事こそ人々の心に残る」～人生の成功は人間力～と題して、株式会社タイラ代表取締役 平 博氏による一般公開講演も行いました。

第2弾として、11月16日に「博愛会コンテスト」を開催しました。これは、グループ内の医療・介護現場での職種・事業所間の垣根を越えた連携を強固なものにするため、チームワーク・コミュニケーションアップによる組織力向上、ケア技術の向上を目的に、「食事介助」、「吐物処理」、「リネン交換」、「情報伝達」、「タイピング」の5部門で日頃のケア技術とチームワークを競い合うものです。

今回の新規事業の開催が、博愛会グループのネットワークと職員一人ひとりの力の結集により、地域の皆様が住み慣れたまちで健康で明るい生活を送れるよう、医療・介護・保険・福祉の充実したサービスの提供につながるものと考えております。



社会福祉法人 博愛会
理事長 細川 吉博

新設コムの里みどりヶ丘進捗状況

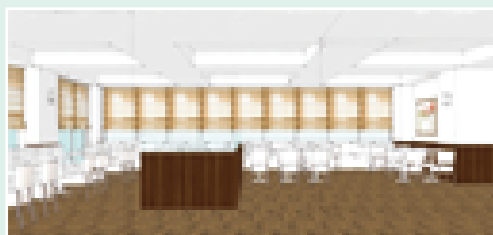
これまで何度か新聞に報道されているのでご存じの方も多いかと思いますが、社会福祉法人博愛会にとって4つ目の拠点となる『コムの里みどりヶ丘』が帯広市緑ヶ丘8丁目1番地のパール温泉跡地に平成27年3月、開設します。

『コムの里みどりヶ丘』は、介護が必要な方の生活を支える介護保険の入所施設（地域密着型小規模特養）・在宅サービス（小規模多機能型居宅介護）だけでなく、元気なシニア世代の方に安心・快適・笑顔を提供する住まい（サービス付き高齢者向け住宅）も整備し、地域の多様なニーズに応えられる、様々な方が集うことができる、そんな場をつくりたいと考えています。

ここで『サービス付き高齢者向け住宅』についてご説明します。聞き覚えのない言葉かもしれませんが、平成23年に自分らしく暮らすための住まいとして『高齢者住まい法』のなかに位置づけされた住居で、60歳以上もしくは介護保険の要介護・要支援の認定を受けている方が入居の対象となります。配偶者やその他北海道知事が認めた方との同居も認められています。『高齢者の住まい』と言っても介護施設ではありませんので、各居室（49室）にはミニキッチン・トイレ・洗面所（うち27室には浴室も）、共用スペースとして専用レストラン・天然温泉の大浴場・ドッグランテラスを完備し、ペットも飼うことができます。施設内の出入りも自由にできる等、自立した生活を楽しめるようになっていきます。また、緊急通報システムも完備し24時間365日いつでも駆けつける体制を整えるほか、職員が常駐し、生活相談や快適な生活をおくる上でのお手伝い、体調が悪い時の受診の支援等も行います。自立した方、または、簡単な手助けがあれば安心して地域の中で生活し続けることができる方、そんなシニア世代の皆様が安心して快適・笑顔を提供します。『みどりヶ丘』には地域の皆様に開放する交流スペースや足湯スペースも整備します。『高齢者だけでなく地域に住む様々な方の憩いの場になるように』『地域の皆様にとって身近で頼りになる施設となるように』、そんな願いを込めて、職員一同、力を合わせ、準備を進めて参ります。



完成外観図（3-4Fが、サービス付き高齢者向け住宅）



専用レストラン



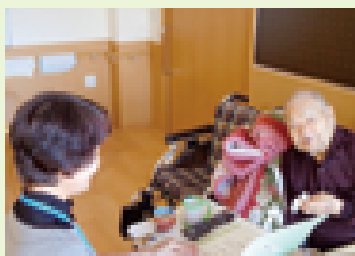
ドッグランテラス



足湯

介護相談員事業 コムニの里まくべつより

コムニの里まくべつでは開設（平成25年5月）時より幕別町の委嘱事業、介護相談員派遣等事業の受入を行っています。月に1回、4人の介護相談員が施設に訪れ、入居者や、小規模多機能利用者と1時間程度、会話をしながら利用者と施設が問題を解決していけるように橋渡し役を務めて頂いております。具体的には利用者との交流後、施設職員との意見交換・情報提供等を行い、問題解決に向け話し合う機会を設けております。また、施設全体の事をご理解頂けるように、運営推進委員会にも出席して頂いております。現在の所、大きな苦情や改善事項といった報告は出てきてはおりませんが、より良い施設運営を目指す為にも今後ますますの協力体制を構築していきたいと思っております。（女鹿）



『介護職員のたまごを増やしたいですね。』

コムニの里おびひろより

コムニの里おびひろではオープンした年から、介護を学ぶ学生、介護に興味のあるボランティア、そして、職場体験として中学・高校・大学生の受け入れを積極的に行っています。【他、介護初任者研修（前：ヘルパー講習）の現場実習もお受けしています。】

この3年間でお受けした学生の皆さんの数は総勢65名程になりました。施設職員と一緒に食事の取り分けなどの生活援助から、入居者の方との会話や体操や将棋、折り紙などの趣味活動を中心に体験してもらっています。

最近では介護人材不足が社会的に深刻になってきています。また、高齢者との関わる機会の少ない学生の方も多いため、この体験を機に入居者の方の暖かい心や懐の深さを知り、少しでも介護の楽しさを感じてもらい、1人でも多くの介護職員の卵をこれからも育てられたらなと思っています。（山本）

将棋で勝負!!



折り紙を一緒に...



食事前の体操



『看取りについて』コムニの里さらべつより

私たちの「看取り介護」の目的は、ご本人が最期まで尊厳を保ちやすらかな気持ちで生きることができるよう支援することです。たとえ回復することが期待できない状況でも残された時間今日一日を充実して納得して生き抜くことができるように日々の暮らしを営めることを目的としてご家族とともに援助することであり、その人の尊厳に十分配慮しながら、終末期に至るまでの介護・看護を心をこめて行うこととしています。

看取り介護を具体的にを行う項目としては、①清潔を保つこと②苦痛を取り除くこと③廃用症候群の予防④関節拘縮の予防⑤安楽な呼吸⑥経口摂取⑦尊厳ある排泄⑧家族へのケアを行うということになっていますが、終末期に至るまでのあいだ日常生活の延長線上にあるととらえた上で、日々の日常の充実を図ります。

そして、身体的兆候や機能低下、回復が見込めない健康状態となられた時は適切なアセスメントを行った上で医師からの十分な説明を受け方針が決まります。介護計画はご本人やご家族の意見や思いを含めて作成し、同意をいただきます。

私たちは「看取り介護」＝「死」ととらえるのではなく、日常生活のケアの延長ととらえています。これまでの看取り介護の取り組みを振り返ると、回診での早期受診により他科受診者の減少、経口摂取が困難な方にはソフト食の提供、さらに地域の医療、消防との連携が実現して「DNAR」（延命措置をしない）の確認により救急車の誤搬送を防げるようルール化されました。

看取りの時期はあくまでも日常生活の延長であり、今までと変わらない地域の中の生活を最期まで支援していくことが地域密着型介護老人福祉施設である、特別養護老人ホームの役割であると思っております。（荻原）

第1回博愛会学会が開催されました。

10月5日(日)日航ノースランドホテルにおいて「第1回博愛会学会」が開かれ、グループ事業所から約180名が集まりました。

業務改善や事業所紹介を医療法人と社会福祉法人から20演題を発表し、審査員は帯広コア専門学校学長、帯広大谷短期大学副学長、つがやす歯科医院長にお願いし、評価を頂きました。コムニの里からは荻原が「看取り介護の取組み～地域で最期まで暮らすこと～」と題し、さらべつでの取組みを発表しました。残念ながら賞はいただけませんでしたが、これまでの実績の報告資料を作成する中で見えてきたことは、ソフト食の実現や他科受診の減少、看取り介護体制と地域の関係機関との連携、施設内のチームワークが確立されたことで利用者様への介護の質も向上してきたのではないかと自負いたします。特養コムニの里は、「地域で安心して最期まで暮らすこと」を支援できる施設へと大きな成長をしてきたと振り返る事ができる良い機会となりました。(荻原)



第1回博愛会コンテスト

11月16日(日) 介護老人保健施設「あかしや」において、介護技術のコンテストが開かれました。

博愛会学会同様、医療法人と社会福祉法人の事業所から選抜された5グループ(開西病院、あかしや、ヴィラかいせい、在宅支援部、コムニの里は3施設合同)の職員が個人、団体、種目別に競いました。競技種目は、介護福祉士の実技試験さながら、参加者全員が見守る中での緊張感のある**食事介助**。パソコン入力の正確さを競う**タイピング**。事故現場をみて伝言ゲームのように「報告」を5人で行う**情報伝達**。嘔吐物の処理を適切に行う**吐物処理**。最後は一番盛り上がった**ベッドメイキング**。以上の5種目でした。コムニの里の競技結果は、「食事介助部門」でまくべつの森戸将介介護員が優勝を獲得し、優しく素敵な実技を皆さんの前で披露しました。総合得点では2位の結果でしたが、来年はぜひ優勝を目指したいと思います。

今年は「学会」や「コンテスト」という二つの博愛会の試みへの参加を通して、社会福祉法人と医療法人の連携について取り組ませて頂いた1年でした。

十勝に広く存在する社会福祉法人博愛会の事業所は、つながりを深め互いに切磋琢磨して成長できるよう、この機会を生かして次のステップへ進んでいきたいと思ひます。(荻原)



おびひろ

小笠原善和様 河野ムユ子様 遣田 祥男様
千田 慶子様

さらべつ

安村スエ子様 森田 好美様 村越 容子様
佐藤 泰子様 中島 則子様 火山 清子様
更別村ボランティアすずらん会様
漁勢会 富田 勝博様

まくべつ

亀山 義和様 品田 達美様 細谷地利勝様
池上 幸男様 荒川 節子様

ご寄付ありがとうございました。



募集しています

いつも皆様からご厚意をいただき、大変感謝しております。引き続き以下の物を募集しておりますので、皆様のご協力よろしくお祈いします。

食器(茶碗・お椀・お皿(大中小平)・お盆・
ミシン・クリスマスツリー・買い物レジ袋・
雑巾・毛布・灯油ストーブ・タオル類・
除雪機・ひな人形・体位交換枕・五月人形・
絵画等の装飾品・カレンダー・シーツなど
綿素材のもの(ウエスに使用す)・
書道セット

編集後記

日に日に寒気も厳しくなり、「十勝晴れ」を思わせるような澄み渡る青空の季節となりました。今年も残り少なくなり、皆様に支えていただきながらの日々だったと感じます。今回の便りに記載しましたが、27年3月には『コムニの里みどりヶ丘』がいよいよオープンです。コムニの里も4人兄弟となり、にぎやかになります。それぞれの地域の皆様に愛され身近な存在になれるよう、職員一同頑張ってゆきますのでどうぞ宜しくお願いします。来年が皆様にとって素晴らしい1年でありますように。(山本)